



今月のトーク/monthly talk

MHH-05 全景

大型ガラスの設置

写真はこのたび竣工した住宅「MHH-05」です。縦6m30cmの見事なガラスが入りました。店舗・オフィスはもちろんですが、最近は住宅でもこのように開口部に大きなガラスを入れるデザインが多く見られます。ガラスというデリケートな製品のため、現場施工は緊張したものになります。

竣工間近、そのうちの1枚ににびが入ったために改めて新しいガラスの取付工事を行うことになりました。不測の事態ではありましたが、一般の方には馴染みのない大型ガラス工事の施工をあらためてご紹介する機会とし、業者の皆様にもご協力いただきました。

この大型のガラスは10ミリ厚の2枚の合わせガラスで間に乳白色のフィルムを挟んでいます。大きさもありますが、重さも433kgとかなりの重量です。

まず午前8時半から職人がガラスの表と裏に足場を組む作業を行いました。引き続き大型ガラス工事で定評のある(株)上野ガラス工業の作業員数人が手分けして足場に立ち、既存ガラスのコーキングを切る作業を行います。(写真①)この日の作業員は総勢10名、それぞれ腰に吸盤(たこ)をぶら下げており、声をかけながらすばやくコーキングをカットしていきます。ガラスは下方の笠木もはずされ、コンクリート躯体の15ミリの溝に収まっているだけとなりました。続いて別の場所で待機していたガラス運搬車、クレーン車が現場前に入ってきました。(写真②)作業は出来るだけ短時間



②



①

で行わなければなりません。

ガラスの落下を防ぐために使用されるのがグレーディングマシンです。(写真③)大きな吸盤をガラスに圧着させ、高所でも支えて作業をしやすいです。クレーン車に設置し、ガラスを吊り下げるのですがこの吸盤はドイツ製。ドイツの施工機械は高性能で信頼度が高いものが多いのです。設置前にきれいに拭いてゴミの付着がないようにします。(写真④)



③



④

クレーン車の腕が伸び始めます。住宅街では電線が一番の障害です。接触しないように慎重に伸ばされた腕からフックが下ろされ、先ほどの吸盤がセットされよいよガラスへの圧着作業です。(写真⑤)足場とガラスとの間に少しずつ吸盤を誘導し、中央まで来たところで作業員の一人が取付けました。ガラスの離脱と移動は躯体や足場と平行に行わないと、ガラスが傾いて接触し、破損する危険があります。見ているこちらも

はらはらします。ガラスの下方から位置を確認しながら声を掛ける人、クレーン車の運転手に無線で指示を与える人、自分の吸盤を圧着させて少しずつガラスの位置を移動させる人—作業はチームワークがものを言います。自分が作業の中で果たす役割を皆が心得て、真剣にすばやく動く作業員の方たちの姿には目を見張るものがあります。その緊張感危険な作業に従事する全ての人に共通す



⑤



るものかもしれません。既存ガラスが躯体からはずされたとき、見守っていた我々全員にほっとした空気が流れました。ガラスは横向きに位置を変え、トラックの荷台の脇に丁寧に下ろされました。(写真⑥)

次は新しいガラスの設置です。クレーンのフックに布を巻いて養生します。(写真⑦)ガラスに吸盤を圧着させ、再びクレーンは上昇、新しいガラスを移動させます。作業員たちは、それに合わせて手分けしてガラスを支えたり、足場に再び軽々と上っていったりして、適切な位置へと導きます。今度は先ほどとは反対の作業になります。枠の溝にガラスを収め、笠木を取付ます。吸盤を慎重に取り外し、クレーンで持ち上げて移動させ、地面に下ろした後、取りはずします。(写真⑧)

昼休みをみんなでコーキングを施し、終了となりました。作業は全体で4時間ほどでしたが、厳しく作業を見守っていた元請の玉屋硝子工業株式会社松田克己専務(写真⑨右)、同じく株式会社上野ガラス工業松本徳之課長(同左)、ご協力ありがとうございました。



作品紹介/monthly architecture 14

MHH-05 新築工事

大きなギャラリーの家

施主は羨ましくも5件目の普請を「終の住処」と考えた。希望条件は、シンプルでインテリジェンスを感じる空間。そしてユニバーサル・デザインであった。夫妻のパーソナリティは「高齢ながら快活・建築に興味津々・行動力旺盛・知的な洒落人」というのが僕の評価。それに一番の魅力は、仲良しのカップルであること。キーワードは、僕との接点にある「理性と感情の融合建築」。そしてデザインコンセプトは、「HANDSHAKE(握手)」である。これは「夫妻が永遠に手に手を取って慈しめる住処であるように」との考えにある。要求の室空間のボリュームを南のテラスを挟み2分割。夫のmassと妻のmassとした。ペアのmassは、異なったマテリアルの外皮で構成。2種の外皮は住処の中核にあるギャラリーに介入する。視覚的に外界・内界で接する外皮は永遠の握手を意味する。家族愛は内界で膨らみ、光庭を経て外界へ暖かい光のメッセージを放つ。住処は主の歴史のポエムである。(大杉喜彦)



①外から見たエントランス。②内部から見たエントランス夜景。③6mのガラス窓・外壁と建物との間に設けられた光庭の竹。④1階トイレ。⑤2階和室。銀色の壁、アーチの天井が緊張感を見せる。⑥1階エントランスギャラリー。床は色違いの御影石。壁は塗壁を縦横に櫛引し、鹿の子模様になっている。左官屋の腕の見せ所である。中庭へ続く外壁にも同様の櫛引を施し、連続した模様が空間の一体感をかもし出す。⑦2階吹き抜け上部の渡り廊下。天井の波板は、吸音効果と間接照明の役目を果たす。⑧1階居室。中庭に面した窓は床から天井まで全面ガラス。⑨2階浴室から見た洗面所とテラス。コンクリートの外壁のスリット窓から明るい光が差し込む。

所在地: 都内
 構造: RC造 規模: 地上2階
 用途: 専用住宅
 設計: 大杉喜彦・大杉絵美
 /大杉喜彦建築総合研究所
 撮影: 編集部



大杉喜彦(おおすぎ よしひこ) profile

1945年 京都生まれ
 日本大学、早稲田大学卒業後、知的障害者施設プロジェクト参加のため渡米。設計事務所3社勤務の後、1979年(株)大杉喜彦建築総合研究所設立、現在に至る。
 主な受賞
 1981年・82年 建築士会住宅コンクール入賞
 1982年 パリ・ビエンナーレ招待作家
 1986年 ARCHI-FILE、コルネット賞
 1995年 NEG空間デザインコンペティション入賞
 1997年 通産省グッドデザイン施設部門入賞
 1999年 すみだ優良景観賞・まちなみ建築賞
 主な仕事
 G&G、THE EEL BED、THE CAT'S BOX、FRICK COURT、THE HUSK、KYOTO AZUR、BY THE WAY、スパ昭島、WEST HILLS、BY-AND-BY、"INDEX"シリーズ 21件、他

—大杉先生は、ガラスブロックを使った建物の設計で有名ですね。
 大杉:最近は、少なくなりましたね。僕とガラスブロックとの出会いは、まだ大手事務所に勤務していた頃になります。あるとき日本硝子建材の営業部長から製品説明を聞く機会がありました。パンフレットを見るとよく見かける建売住宅の玄関脇の袖に採光窓として使用している程度。「折角ならもっと大きな面として使用すると楽しいのに」と提案したことが始まりでした。その頃自分の独立が決定。京都の西陣で歯科医院+住居の設計がスタート。デザインコンセプトのボルト屋根とそこからの採光にガラスブロックを使用した最初の作品が、“THE EEL BED”(うなぎの寝床)でした。独立前の発表作品は2件ありましたが、独立後の発表としては初めての作品です。(『新建築8005』)とにかく、間口5x奥行42mという一部変形の京都のうなぎの寝床そのものの敷地でした。坪庭を建物の中央に介入させ、屋根はガラスブロックをボルト状に積み、その室内の3階は吹抜けでガラスブロックのブリッジを掛けました。2階の床もガラスブロックを用いて、1階の歯科医院の採光面積を確保したのです。評判は上々で、その後の僕の作品“INDEX”(街の指標)シリーズが始まるわけです。ガラスブロックは様々な用途の建築の開口部に大量に用い、建築雑誌にも数多く発表しました。ガラスブロックの売上げも急上昇ですよ。お陰で日本硝子建材の本社ビルを設計をやらせていただきました。“SUMIDA INDEX”という作品です。(『新建築9212』)グッドデザイン賞や優良景観賞もいただきましたね。
 —大杉先生のお陰ですね(笑)。建物も周辺から際立ちますよね。
 大杉:“INDEX”は街の景観として昼間だけではなく、夜は行燈のごとく見える、昼景と夜景の表情変化を意図しています。

—ガラスブロックというまず採光性を思いつきますが、そのような効果もあるのですか。そのほかの魅力とは何でしょう。
 大杉:ガラスブロックの魅力は集合体として扱った透過壁に、壁の意味を明確に持たせることにより始まるのです。そして光は、決定的な役割を持ちます。様々なパターンのガラスブロックを透かした光、この光は瞬間的にも永続的にも使用できる光なのです。この光は外界より内界へ、また内界より外界へ圧倒的な強さで、また一方的な強引さで人の知覚に侵入してくるのです。ガラスブロックを透過した光は、自分の周辺部分全体、言い換えれば環境を自分のものとして支配してしまいます。つまり人と建築との関係の“場”を考えるにあたって、きわめて優れた物理的性質を持っている。しかもこの歪んだ光は今までに触れた全ての空間を、明るさの中における“場”しか持たなかったのに対し、もう一つの“場”、暗さにおける形態を可能にしました。それは、可視空間の存在性によって構成された建築が、一挙に抽象的思考、抽象的感覚の空間性にまで拡大されたといえるのです。
 —独立当初からガラスブロックにはまっていたのですか。
 大杉:“THE EEL BED”はデザインコンセプトの解決にガラスブロックを使用したわけで“INDEX”の発表作は1985年からです。独立当初は、勤めている時から思考していた「理性と感情(感性)の融合建築」を追求したいと考えていました。その考えは今でも僕自身ずっと維持しています。
 —大杉先生の建築設計に対する概念のようなことを含めて説明いただくとすると・・・。
 大杉:僕が生まれたのは終戦間近でした。そして日本は初めて民主主義といわれる国となり、その民主主義の手本であるアメリカを始め、ヨーロッパの国々の影響を思う存分、あるいは無分別に取り入れて良くも悪くも高度成長の道を歩み続けてきました。誰もが無意識のうちにアメリカやヨーロッパ化することが「良し」とされる価値観の時代に身を置いて、その「良し」を大きな目的として今日まで来たわけです。例えば建築、特に住宅を取り上げてみても、スタイルや合理性や能率性、また目新しいものなど、従来なかった様々な変化の要因を、模索や試行錯誤を繰り返しながら積極的に取り

入れてきました。その結果、現在では「暮らしの概念」そのものの変化にともなう、かつての習慣や因習にとらわれることも少なくなり、住宅建材、住宅設備、インテリア用品などの進歩によって、気候や風土からの制約を昔ほど考慮しなくともよくなりました。個人のスタイルと好みによってどのようにも暮らしぶりを発想できる状況にあります。

しかし、考えなければならないのは、その多様性にはその前提に「自己」という民主主義の基本概念がしっかり確立されていない限り、むしろとりとめがなく、曖昧なものになってしまうということです。そして今がまさしくそんな状況の時代といえそうです。

一家を建てるための自問自答の答を持つよう、建て主も考えるべきということですか。

大杉:そうですね。建築家は施主が望むハウスは設計できますが、ホームに関しては、住まい方の提案はできてもそれを強要すべきではないと考えます。設計がスタートして竣工までの長い間に必要以上の打合せを行うわけですから、住まい手も理想的なホームづくりのプロの筈です。

—建て主に具体的なアドバイスがあれば、お願いします。

大杉:曖昧な中から自分にとって一体何が大事かを見つけることは難しい作業です。豊富な情報、物質、様式、提案などの多様性は、逆に管理されやすく、また画一的な発想や表現に陥りやすいともいえます。住宅とは、言うまでもなく住み手個人のもので、ならば原則的には住み手個人の発想が誰にも邪魔されずに表現できる空間になりうるわけです。もちろんそこには「調和」という大事な要素があります。

では、一体何に調和させるのかといえば、住み手の自己、つまり個性とそれから空気や空や木々の自然にあって、けっして流行とか無節操なアメリカ化とか、あるいはライバルの隣の家の大きさではないはず。自分の生活意識、志向性、感性を知り、それに合った自分のスタイルを持つことが住まいを考える上で大切なことだと考えます。選べる能力を発揮できてこそ、自分にとって機能的で魅力的で個性的な私的空間を持つことができると思うのですが、如何なものでしょう。

—住宅の本質とはどのようなことだと考えられますか。

大杉:前に「理性と感情(感性)の融合建築」と述べましたが、住宅においては緊張感のある空間をぜひ取り入れるべきだと僕は考えます。それは一見、人の気配を拒んで猥雑な生活の匂いを受け付けられないように見えますが、そこに一つの生活のあり方を主張させているのです。言い換えれば生活の猥雑さを拒んだ静けさの中で、惰性に流されず、自分を見つけられる緊張感を日常生活の中に取り込もうとする意識的な暮らしぶりが見つかると思います。非日常的な空間によって初めてリフレッシュされる感性を大切にしたいという意識を持つ人にとっては、快い空間になるわけです。室空間の美とは人間の活動が美しく見えることであって、室はその装置です。装置である室空間が材質や色彩面で猥雑になればなるほど、人の存在を消し去ってしまい、そこには感性の乏しい住まいが露骨に現れてきます。一緊張感のある非日常的空間によって、張り合いのある暮らしがもたらされるだろうことは容易に想像がつかます。自分を高める気持ちやいつまでも持ち続けたいものですね。どうもありがとうございました。

写真右:大杉事務所2階応接ルームのガラスブロック。支える梁はサーキュレーター役目も果たしている。



「オールラウンドで応えたい」

株式会社東京三木塗装店
部長

久保田 陽氏

今月は、東京三木塗装店です。大手ゼネコンの大型物件など、一般住宅から高層ビルマンションまで塗装全般を請け負っている会社で、常時働いている職方も200人を数えるとのこと。久保田陽部長と島倉康人課長に話を伺いました。

一創業は大正13年。古い歴史をお持ちの会社ですね。

久保田：明治時代に開業した大阪の三木塗装店が当社の本家であり、大正の時代にこの地に東京出張所を設けました。大お得意様である楠竹中工務店の後を追いかけてきたようにも聞いています。昭和35年にその出張所が㈱東京三木塗装店に改組(独立)し、現在に至っています。

一塗装業界は今、どのような状況でしょうか。

久保田：裾野が広い業界で一概には言えませんが、いわゆる現場のペンキ屋さんということであれば、バブルの崩壊以後新築工事は低迷気味でしょう。マンション、ビルの改修工事という形ではかなり隆盛ですね。この15年、首都圏ではリフォーム工事ブームという印象があります。しかし、現在では異分野からのリフォーム業への転進組が多く、それぞれの得意な部分で参入してきているので、営業が変わってきたといえますね。まだまだリフォームは伸びていきますが、業者は飽和状態。厳しい状況ですね。

一日頃感じることは？

島倉：設計事務所の方のお問い合わせ、重たいですよ。 「ちょっと教えて」とか「こういうやり方はできるのか」とか「どうやってるの?」と、とりあえずキャッチボールがあれば、より柔軟性を持って接することが出来て、オリジナリティ溢れる提案が出来るのですが…。塗料の世界は深いんです。塗る素材も多いし、建築分野に使用する材料でも多いメーカーは1社で200種類ほどの製品を扱っています。ですから「Aという商品の資料を送って!」という要請だけでは、ちょっと心配しちゃいます。どこに使うとか、イメージ、要求機能等々、5W1H的な情報がそのときにあれば、値段も含めた最適仕様(仕上材)を供給することができるのと思います。要するに、我々の材料ノウハウ+施工ノウハウをもっとフル活用して欲しいですね。

久保田：本当、塗ったあとでお困りになるより、事前に詳しく希望を言っていたら、我々も助かることが多いです。

細山田(辰工事部長)：事務所の先生に指示されたスタッフの方が、結局「資料出してくれ」というばかりでは、現場に反映されない作業になり



吹きつけ作業ではマスクングに気をを使う。作業量により防塵マスクを着用する。

ますね。それは塗装に限ったことではないのですが……。

久保田：職人は、改めて指定されなくてもいいものを持って何うものですよ。お客さんに最良のものを考えていきますから。

一塗装の仕事は体力がいると聞きますが。

久保田：まず、普通は塗装職人といっても仕事内容で人が分かれるんですよ。まったく違う職種に思えるときがあります。新築と改修、新築でも外部のガン吹きつけと内部ボード塗装、あとは橋梁、プラントの鉄骨塗装。それぞれ職方が違うのが普通でしょう。外装専門職方であれば、足場上で広範囲の移動と工具扱いの関係で体力いりますね。建築内部職人は、材料種類の使用範囲が多いのと、素材が多いので経験値がものを言うのではないのでしょうか。

もし、専門職人に鉄骨のディスクサンダー掛けを頼んでも何日ももたないと思います。刷毛の持ち方、入れ方、段取りも違いますから戸惑うでしょう。ただ、我々も様々な工事を請けますから、職方の選り分けばかりできないです。ですから、オールラウンドプレイヤーの職方は貴重な存在です。中にはいますね。もともとうちの会社は内装職方系ですが、塗る素材種が多く、材料の扱い品種も多くて、何でも「きれいに」仕上げる腕(能力)がありますから、比較的、どんな現場でも器用に順応できる職方が多いです。

島倉：うちの職方は、親方の後継者であるとか、血筋というか身元のハッキリしている職方が多く、みんな競い合っ腕と体力を磨いています。オールラウンドプレイヤーとしての職人集団で、今後も他とは違った要求度の高い工事に応えられる塗装店として仕事をしていきたいと思っていますね。—どうもありがとうございます。



左：島倉課長 右：久保田部長
神田の本社前で。

TOPICS/INFORMATION

「五本木ハウス新築工事 地鎮祭」 目黒区 5月18日

木造からRC造にこだわった賃貸住宅1戸を含む、二世帯住宅です。

構造：RC造
地上3階
用途：専用住宅
設計：大森伸一設計室
完成予定：2005年11月



「駒沢南棟新築工事 地鎮祭」 世田谷区 5月18日

リブコム企画の大型店舗です。北棟に続いての建設です。

構造：S造
地上3階 地下1階
用途：店舗
設計：㈱辰一級建築士事務所
完成予定：2005年11月



「練馬集合住宅PJ新築工事 地鎮祭」 練馬区 5月27日

西武池袋線沿線の点在した土地を所有しているオーナーが、街にとって有益な集合住宅を提供していきたいと、プロデュース会社に依頼した長期的な開発計画の第1弾です。

構造：RC造+S造 地上4階
用途：共同住宅
設計：㈱若松均建築設計事務所
企画：プロパティデザインオフィス
完成予定：2006年4月



「東陽町クリニック新築工事 地鎮祭」 江東区 6月3日

葛西橋通りに面して高い建物が立ち並ぶ中に、あえて低層の建物を建てることでその存在感をアピールします。

構造：S造 地上2階
用途：診療所
設計：関根裕司
/アルボス一級建築士事務所
完成予定：2005年11月



編集後記

・そろそろ梅雨です。雨の季節になると心配なのが、雨漏り。原因がなかなかわからず、施工屋泣かせの工事が多いのです。住宅は日頃のお手入れが肝心。外壁の塗装や屋根周りをもう一度確認されてみてはいかがでしょうか。